

箸中大池

(はしなかおおいけ)



全景



ため池の概要

ため池の所在地

奈良県桜井市

ため池の特徴

箸中大池は、邪馬台国の卑弥呼が埋葬されていると言われている箸中古墳を取り囲むお堀の池で、農業用水として周辺の農地を潤しています。

箸中古墳は全長282mの前方後円墳で、かんがい施設と見られる纏向(まきむく)遺跡大溝は、その規模が大きく、また河川を経て大阪湾に通じていることから、用水路だけでなく、舟運にも使われていたと考えられています。

古代国家成立にかかわる大神(おおみわ)神社の御神体は三輪山であり、その秀麗な姿を背景に箸中大池(古墳)があります。古代の道・山辺ノ道には、古代ロマンを求め、また大小のため池群、古墳群や環濠集落などの大和の風景を愛でるため、全国から多くの人々が訪れています。箸中大池は、それらのため池の代表格となっています。

周辺地域は、纏向景観保全地区に指定されており、近年の堤体改修の際にも、ヨシの保全、植石ブロックによる環境整備が行われました。また、周辺のため池と一体となって渡り鳥の飛来地となっており、生態系ネットワークが良好に保たれています。

関連情報